

# ラダー別研修プログラム

専門領域の看護力の向上を目指し、ラダー教育を実施しています。

練馬光が丘病院では、看護師それぞれの能力の開発に加え患者さまに適切な看護を実施するため、経験年数とレベルに合わせたキャリアラダーを導入し、客観的かつ公正に評価しています。

## 練馬光が丘病院 クリニカルラダー

定義	レベル	I 1年目	II 2年目～3年目	III 3年目～7年目	IV 7年目～9年目	
	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者にあう個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	患者や状況(場)の個別的なニーズを自らとらえる	患者や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	患者や状況(場)を統合しニーズをとらえる
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 助言を受けながら、患者に必要な身体的、精神的、社会的側面から必要な情報収集ができる。</li> <li>□ 患者の受け手の状況から緊急度をとらえることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から情報収集ができる</li> <li>□ 得た情報を元に、患者の全体像をふまえ、その患者の個別的ニーズをとらえることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者に必要な身体的、精神的、社会的側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる</li> <li>□ フィジカルアセスメントができる。患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起こっている現象を考慮することができる</li> <li>□ 得られた情報から優先度の高いニーズを捉えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる</li> <li>□ 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる</li> <li>□ 患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集する</li> </ul>
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	患者や状況(場)に応じた看護を自立して実践する	患者や状況(場)の特性をふまえた看護実践をする	様々な技術を選択し・応用し看護を実践する
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる</li> <li>□ 指導を受けながら患者に基本的援助ができる</li> <li>□ 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者の個性を考慮し、標準的な看護計画に基づき主体的にケアを実践できる</li> <li>□ ケアを実践する上で必要な情報収集を自ら得ることができる</li> <li>□ 患者の目標を考慮し、専門性を活かして個別性に沿った援助ができる</li> <li>□ 患者の状況に合った看護であったか振り返ることができる、学習課題が見出せる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者の個性に合わせて、適切なケアを実践できる</li> <li>□ 患者の顕在的、潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる</li> <li>□ 患者の個性性をとらえ看護実践に反映ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる</li> </ul>
	協働する力	【レベル毎の目標】	チームメンバーとして役割を認識し行動する	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換が出来る(自分の意見が言える)	患者やその関係者、多職種と連携ができる	患者を取り巻く多職種の力を調整し連携できる
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 連絡・報告・相談ができる</li> <li>□ 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる</li> <li>□ 助言を受けながら、患者の看護に必要な情報が何かを考え、関係者と情報共有することができる</li> <li>□ 患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者を取り巻く関係者と積極的に情報交換や情報共有をし、チーム医療のそれぞれの立場や役割を理解できる</li> <li>□ 関係者と良好なコミュニケーションをとることができる</li> <li>□ 関係者との情報交換から患者を取り巻く環境を状況把握し、看護の方向性を考えた看護展開の発信ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者の個別的なニーズに対応するために、関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる</li> <li>□ 患者とケアについて意見交換できる</li> <li>□ 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる</li> <li>□ 多職種間の連携が機能するように調整できる</li> <li>□ 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる</li> </ul>
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	患者や家族の意向を知る	患者や周囲の人々の意向を看護に生かすことができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 助言を受けながら、患者や家族の思いや考え、希望を知ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者や周囲の人々の思いを考え、希望を意図的に確認することができる</li> <li>□ 確認した思いや考えを看護に関連づけることができる</li> <li>□ 確認した患者や周囲の人々の思いや考えを関係者に伝達し患者の意思決定を支える働きかけができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる</li> <li>□ 患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる</li> <li>□ 患者や周囲の人々の意向の違いを他職種に代弁できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 患者や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる</li> <li>□ 複雑な意思決定場面において、患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる</li> </ul>	